



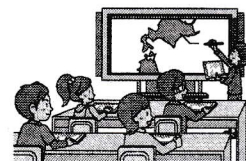
いしべっ子

電話 : 77-2030
FAX : 77-6733

立春を過ぎましたが、今年は例年に無くまだまだ氷点下の寒い日が続いています。しかし、季節は一進一退を繰り返しながらも、確実に「春」に近づいています。

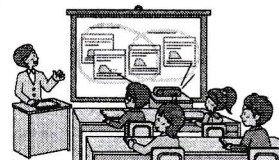
今年は、韓国のピョンチャンで冬季オリンピックが開催されています。日本代表の選手たちは、力の限り頑張っています。選手たちに負けないよう、残すところ一月余りとなった平成29年度の締めくくりがしっかりとできるように、教職員一同気持ちを引き締めて頑張りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新学習指導要領(これからの教育)について



新学習指導要領が公示され、来年度から教科によっては移行が始まり、東京オリンピックが開催される平成32年度(2020年度)より完全実施されます。そこで、すでに新聞やテレビ等でご存じの方もおられると思いますが、その概要についてお知らせします。

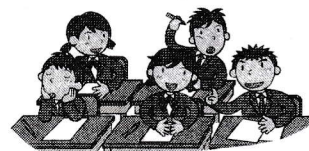
学習指導要領が改訂されるようになった理由



社会的変化が予測を超えて進展

- ・人工知能が進化して、人間が活躍できる職業はなくなるのではないかな。
 - ・今学校で教えていることは、時代が変化したら通用しなくなるのではないかな。
- (※日本の子どもたちの学力が落ちたわけではありません。)

どのような目的で改訂するのか



急激な変化の中でも、未来の創り手になれる資質・能力を確実に備えた子どもを育成する学校教育を実現するために改訂

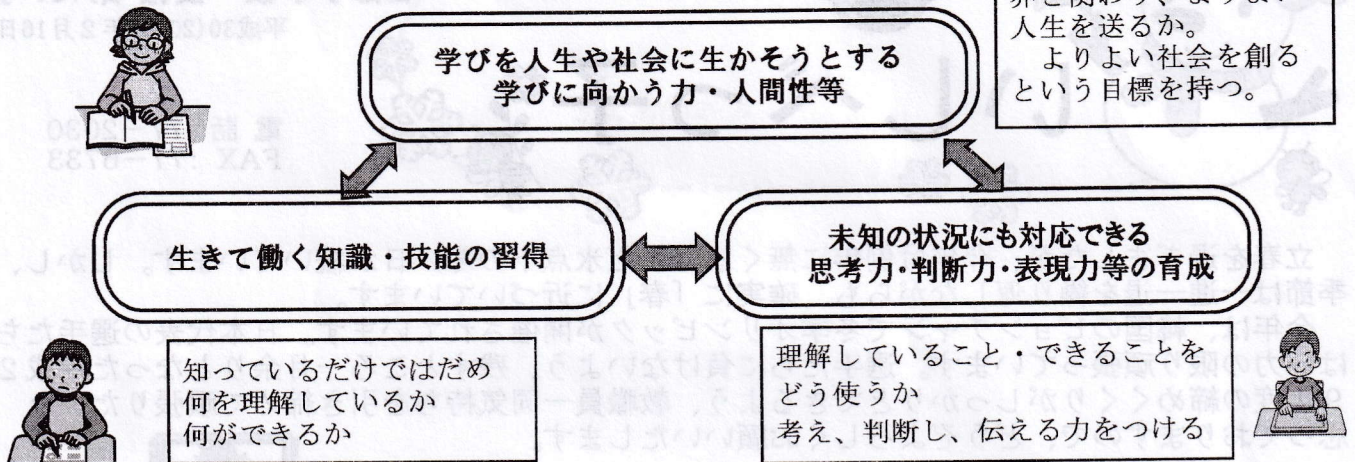
詳しく説明すると



- ・人工知能がいかに進化しようと、行っているのは与えられた目的の中での処理である。
- ・人間は、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え出すことができる。
- ・場面や状況を理解して自分で目的を設定し、その目的に応じて必要な情報を見つけ、情報を基に深く理解して自分の考えをまとめたり、相手にふさわしい表現を工夫したりすることができる。また、答えのない問題に対して、いろいろな人と協力しながら目的に応じて納得できる答えを見つけることができる。このために必要な力を成長の中で育てているのが、人間の学習である。子供たち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが重要である。
- ・こうした力の育成は、学校教育が長年「生きる力」の育成として目標としてきたものであり、今は正に、学校と社会とが認識を共有し、相互に連携しなければならない。
- ・より良い学校教育を通じて、より良い社会を作るという目標を学校と社会が共有して実現。

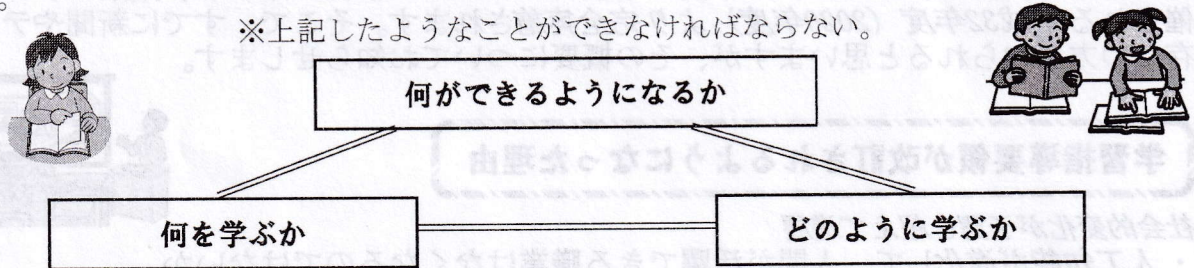
(新しい学習指導要領の考え方：文部科学省資料より)

新しい時代に必要となる資質・能力



○今までのように個別の知識を覚えるだけでなく、それらが互いに関連付けられ、さらに社会の中で生きて働く知識となるように学習しなければならない。また、これらの知識が社会における様々な場面で活用できる知識として身に付けられるように学習しなければならない。

※上記したようなことができなければならない。



※上記の資質・能力に必要な内容になる。
外国語教育が、教科になる。(外国語科)
道徳が、「特別の教科道徳」になる。
他の教科の内容は、大きく変わらない。
学習内容は、削減されない。

※「主体的・対話的で深い学び」を行う
主体的・・・自ら進んで考え、学ぶ
対話的・・・他の人と協力し、相手にふさわしい表現を工夫して
深い学び・・・身に付けた知識を活用したり、思考力を発揮したりしてより深く理解したり、新たな問題を見つけ、解決したりする

来年度から変更されること

- 来年度から移行措置として、3・4年生の外国語活動が年間で15時間始まります。5・6年生の外国語は、今年は年間35時間でしたが、15時間増え50時間になります。
- 道徳は、先行実施となり、特別の教科道徳として実施され、連絡簿に文章で評価が記載されます。

(新しい学習指導要領の考え方：文部科学省資料より)

スキー教室を開催しました

今年度も2月2日(金)に6名のボランティアの皆さんにお世話になり、奥伊吹スキー場でスキー教室を開催しました。早朝より学校に集合し、全員が参加をすることができました。天候にも恵まれ、終日、晴天の中での開催となりました。それまでの寒い毎日が嘘のようでした。初めてスキーをする子どもたちもたくさんいてどうなるかと思いました。慣れない靴やスキー板に、始めは悪戦苦闘していた子どもたちも時間が経つにつれ、滑る感覚をつかみ、気持ち良く滑っていく子が増えてきました。途中からトンネル(動く歩道)に乗って200mぐらい上の斜面から滑り始める班が多くなりました。帰る頃には、ボーゲン(ハの字形にスキーを開いて滑る方法)で自由に曲がりながら滑っていました。子どもたちは大満足で、ケガをする子どもも無く、全員無事に帰ってきました。スキーの楽しさを味わえた一日でした。これからの生涯体育に結びつけて欲しいものです。



〈準備運動〉



〈気持ちよく滑る〉